

只今旅団長から過分なるご紹介をいただきました第九代第十四後方支援隊長を拝命いたしました佐藤一佐です。南西防衛の第一線の作戦基本部隊の後方支援隊長に上番するにあたり、その責任の重さに身が引き締まる思いです。

我が国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、ロシアによるウクライナ侵略のような事態が、将来インド太平洋地域で発生する可能性は排除されない。また、グローバルなパワーバランスが大きく変化し、政治・経済・軍事等にわたる国家間の競争が顕在化しており、特に東アジアにおいては、中国が力による一方的な現状変更やその試みを継続・強化しているほか、北朝鮮・ロシアがこれまでに以上に行動を活発化させている。特に中国は、2027年に「健軍百年の奮闘目標」を達成することを目標の下、「機械化・情報化・智能化」の融合発展を推進するとともに、台湾に関しては、決して武力行使の放棄を約束しないと表明しているだけでなく、同地域周辺での威圧的な軍事活動を活発化させている。

国内においては、首都直下、南海トラフ巨大地震等の大規模災害発生の可能性、気候変動の影響による台風・水害の気象災害の激甚化・頻発化している状況である。

この様にいつ何が起きてもおかしくない状況との認識の下、南西防衛の第一線たる第十四旅団の作戦を支援する我が後方支援隊のビジョンは、即応性・抗堪性ある戦力維持支援であると考えています。

このため、後方支援隊長に上番するにあたり、私の統率方針は、「任務即応」です。これは、災害派遣、防衛警備事態等に対する即応態勢や平素における部隊の支援ニーズに即応するだけでなく、「ミリタリーレディネス」がとれている状態、即ち任務完遂できる練度に到達しその練度を維持するということも含めた「任務即応」です。

また、私の諸官への要望事項は、一つは「戮力協心^{りくりよくきょうしん}」です。ウクライナの戦訓などを踏まえると、精密誘導兵器の射程内で行動するには「小規模自立分散」が必要なのかもしれないが、機能別・物別となつている我々後方支援隊において、「小規模自立分散」だけでは任務の完遂は難しいと考えることから、隊員全員の力を結集し、心を一つに任務に当たることを意味する「戮力協心」を要望します。また、任務遂行は元より平素の隊務運営も含めてやるべきことを実行するにあたっては「明るく前向きに」実施することを二つ目に要望します。

私は、歴代隊長が築かれたこれまでの基盤の上で、その良き伝統を継承するとともに、隊の一層の充実・発展のため全身全霊を尽くす所存です。共に頑張ろう。

令和五年三月三十日 第十四後方支援隊長 一等陸佐 佐藤欣央